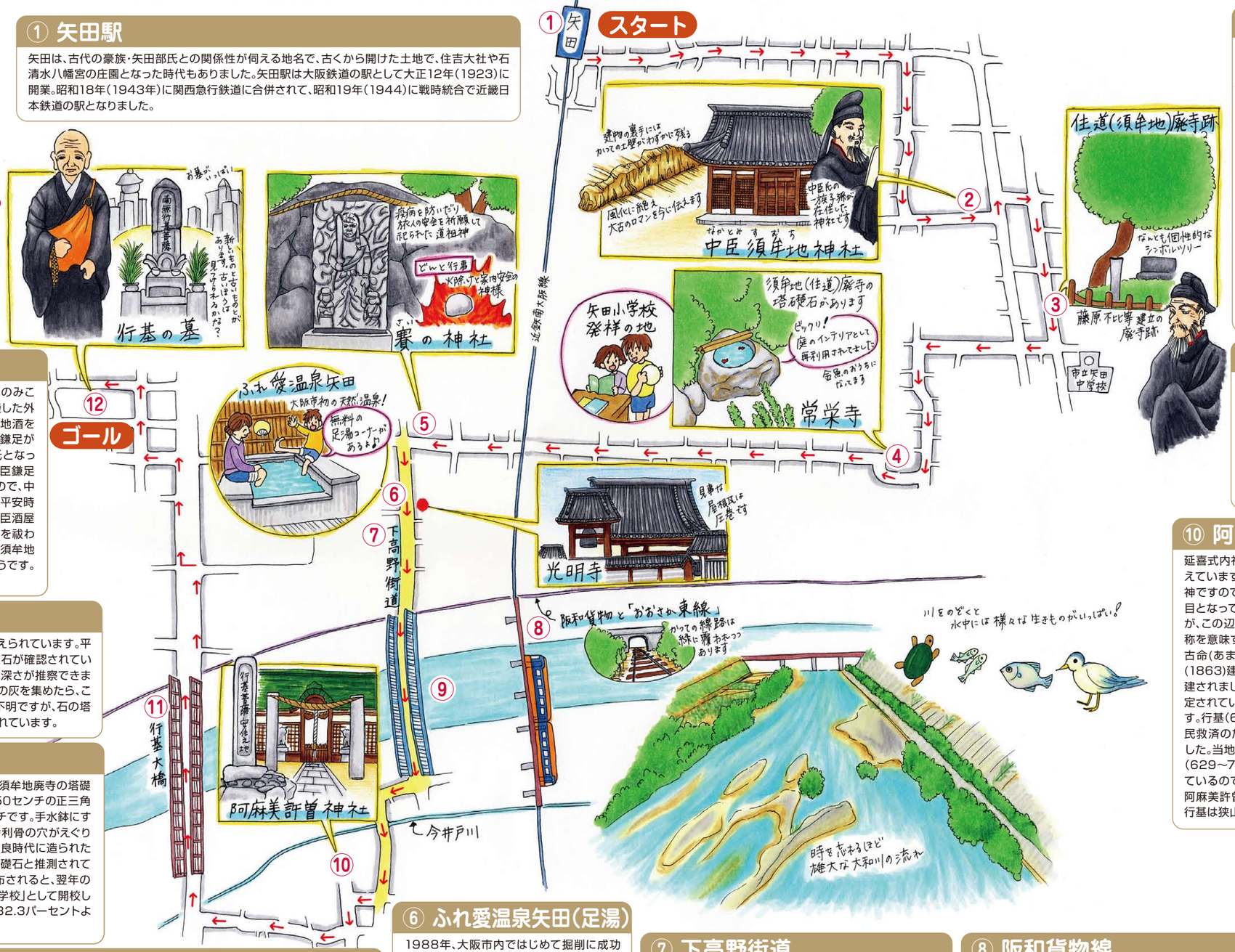
大阪は‘まち’がほんまにおもしろい

日本初の大僧正・行基菩薩の聖跡を歩く

～中臣須牟地神社から阿麻美許曽神社まで～

日本最古のダム式貯水池「狭山池」を改修したり、大阪を中心に貧民救済のための治水・架橋などの社会事業を指導した行基。国家プロジェクトだった奈良・東大寺の建立に携わり、745年(天平17年)には聖武天皇から日本最初の大僧正の位を贈られました。大和川に架かる行基大橋や「行基菩薩安住之地」の石碑がある阿麻美許曽神社など、行基ゆかりの地を訪ねてみましょう。

大阪あそ歩 OSAKA ASOBO®



① 矢田駅

矢田は、古代の豪族・矢田部氏との関係性が伺える地名で、古くから開けた土地で、住吉大社や石清水八幡宮の庄園となった時代もありました。矢田駅は大阪鉄道の駅として大正12年(1923)に開業。昭和18年(1943年)に関西急行鉄道に合併されて、昭和19年(1944)に戦時統合で近畿日本鉄道の駅となりました。

② 中臣須牟地神社

このあたりは神武天皇に仕えた天種子命(あめのたねこのみこと)の子孫・中臣氏の土地でした。中臣氏は、住之江に上陸した外国使節を、磯歯津路(住吉街道)に沿って飛鳥に案内して地酒を振る舞って歓待したとされています。この中臣氏から中臣鎌足が現れて、大化の改新(645)を成功させ、中臣氏は藤原氏となって、名門貴族として全盛時代を築いていきます。神社は中臣鎌足の次男・藤原不比等(659～720)が勅命で創建したもので、中臣氏の祖霊を祭ったもので、「大社」の社格をもつ式内社(平安時代の延喜式に記載されている神社のこと)です。摂社に中臣酒屋神がいて「忌部記文」によれば「須牟地の神酒を賜うて穢を祓わない者は日本人ではない」とあって、例えば渡来人などは、須牟地の神酒を飲んで一緒に酔っぱらえば仲間と認められたようです。一種の通過儀礼を司った神さまといえます。

③ 須牟地(住道)廃寺跡

藤原不比等が建立し、僧・玄昉(げんぼう)が開基したと伝えられています。平安末期の兵火(源平合戦？)で焼失しましたが、古瓦や塔芯石が確認されています。中臣須牟地神社とともに中臣氏(藤原氏)の関わりの深さが推察できます。大きな塚が立っていますが、これは兵火で焼けた寺院の灰を集めたら、この塚になったと言われています。寺院規模や伽藍配置は不明ですが、石の塔芯礎が南西310メートルにある常栄寺の雨受けに転用されています。

④ 常栄寺

真宗大谷派寺院で、境内の雨受けに利用されている石が、須牟地廃寺の塔礎石として有名です。石の大きさは底辺167センチ、高さ150センチの正三角錐台で、中央にある柱穴の直径は67センチ、深さ16センチです。手水鉢にするさいに加工したようで寺内の説明板には赤く描いて舎利骨の穴がえぐり取られたあとを示しています。石の材質と加工状態から奈良時代に造られたものと判定され、焼けた跡が見られるので、須牟地寺の塔礎石と推測されています。また明治5年(1872)に小学校の教育制度が発布されると、翌年の明治6年(1873)に、常栄寺は「堺県河内国第三十三番小学校」として開校しました。当時の村の就学率は43パーセントで、全国平均32.3パーセントよりも高かったと記録されています。

⑤ 賽(さい)の神社

道祖神で「馬街道」とも呼ばれた下高野街道(四天王寺～田辺～天美～八下～狭山)の一角にあります。村に疫病が入らぬように、また旅人の安全を祈願して祀られたものです。昔、近くの川を流れてきた石が泡を吹いていて、村人が拾い上げると「我は火の神で、寒いから火を炊いて欲しい。供養する者には1年間息災のご利益を与える」と言ったという伝承があり、「火除けと家内安全の神様」として大切にされています。毎年1月15日が「とんどの日」で、火の中に差し入れた「書き初め」が高く燃え上がるほど、学校の成績が上がるという古老の話が伝わっています。戦前は大和川のほとりで、14日夜から15日明朝まで徹夜で行われていましたが、現在では「賽の神の石」は祠の中に納められ、とんど焼きのさいに火に掛け、それが済めば、石に晒し布を巻いて酒をかけて、元に納める神事が続けられています。「この御利益で戦争中にこの地域に爆弾が落とされなかった」として、現在も灯明が絶えず、信仰が継続しています。

⑥ ふれ愛温泉矢田(足湯)

1988年、大阪市内ではじめて掘削に成功した天然温泉です。泉源は「大和川矢田温泉」として登録されていて、泉源温度45度の良質ナトリウム・カルシウム塩化物温泉で、毎分470リットルを湧出しています。温泉前に足湯があって、地域住民の憩いの場となっています。ちなみに矢田を北上していくと湯里地域に辿り着きますが、ここはかつて温泉が出て、江戸時代には「湯屋島」と呼ばれたことが地名の由来にもなっています。

⑦ 下高野街道

律令制の崩壊で、天皇家が信奉する神道が衰退すると、大衆仏教が隆盛して、真言宗総本山の高野詣が、天皇や公家ばかりでなく、武士や庶民にまで広がりました。下高野街道は、高野山への参詣ルートで、京都から淀川を舟で下って、大坂・四天王寺に入り、そこから平野郷～田辺村～天美村(松原市)～八下村(堺市)～岩室村(大阪狭山市)などを経て、高野山に向かう道のことをいいます。もとは宗教街道ですが、江戸時代には生活道路としても発達しました。

⑧ 阪和貨物線

加美(大和路線)と杉本町(阪和線)を結ぶ貨物専用線です。東海道線の吹田操車場と加美(久宝寺)とを結ぶ城東貨物線とともに、東海道・山陽道と南大阪、和歌山方面を結ぶ貨物輸送に使われていましたが、鉄道貨物輸送の縮小で平成16年(2004)に閉鎖されました。ちなみに城東貨物線は新大阪－放出－久宝寺間を高架化して「おおさか東線」として旅客列車を走らせる計画で、2018年度末に全線開通予定です。

⑨ 大和川

古代の大和川は生駒山系を抜けると石川と合流して北に向かい、河内湖に注ぎ込んで、上町台地の北端で海と合流していました。やがて淀川と大和川の土砂で河内湖は埋まって低湿地の河内平野を形成しますが、大和川支流は土砂が堆積した天井川で、たびたび水害にあいました。そのため今米村(現・東大阪市)の庄屋・中甚兵衛らが河内の農村をとりまとめ幕府に請願して、宝永元年(1704)に付け替え工事が行われ、わずか8ヶ月で大和川は現在のように堺に向け西流するようになりました。流域の奈良県の下水道普及の低さなどが原因で、日本で最も水質が悪い河川でしたが、現在は水質が大幅に改善され、2007年11月にはアユの産卵も確認されています。

⑩ 阿麻美許曽神社

延喜式内社で平安時代初期の大同年間(806～809)の創建と伝えていますが、由緒はもっと古いともいわれています。矢田村の氏神ですので、大和川付替後も松原市に属さずに、東住吉区矢田7丁目となっています。ご祭神は素戔嗚尊、天児屋根命、事代主命ですが、この辺りが中臣氏の支配地であること、また神社名の許曽は尊称を意味することから、ご祭神を中臣の祖・大小橋命の子で阿摩比古命(あまのひこのみこと)とする説もあります。拝殿は文久3年(1863)建造で、本殿は独特の阿麻美造で昭和35年(1960)に再建されました。樹齢500年の楠木群は大阪市条例で保存樹林に指定されています。また境内には「行基菩薩安住之地」の石碑があります。行基(668？～749)は河内国大鳥郡(現・堺市)出身の僧で、貧民救済のために治水や架橋、新田開発などの社会事業を指導しました。当地での行基の滞在記録はないのですが、行基の師匠・道昭(629～700)が、近くの瓜破地域(平野区)で活動した記録は残っているので、行基も当地に関与した可能性はあるといえます。また阿麻美許曽神社近くの下高野街道は狭山方面に通じていますが、行基は狭山池の改修にも大きな業績を残しています。

⑪ 行基大橋

昭和53年(1978)架橋。行基とは何の関係性もありませんが、この辺りに行基伝説が数多く残っていることに因んで名付けられました。かつてはこの付近には剣先船の船着場がありました。ちなみに行基は泉大橋(山城国相楽郡泉里)、山崎橋(山城国乙訓郡山崎郷)、高瀬大橋(摂津国嶋下郡高瀬里)、長柄(摂津国西成郡)、中河(摂津国西成郡)、堀江(摂津国西成郡)に橋をかけたという「架橋六所」の業績が伝えられています。

⑫ 行基の墓

養老元年(716)、そのあまりの人気ぶりに恐れをなした朝廷から、民衆を扇動する危険人物として、行基は弾圧を受けました。しかし一向に行基人気は収まらず、また行基の活動が反朝廷的なものではないことから、天平3年(731)には弾圧を緩め、天平4年(732)には、行基の指導で狭山池の改修工事が行われました。行基の名は遍く世に知られ、天平13年(741)には聖武天皇と会見。天皇は国家的大事業で、悲願であった東大寺大仏殿建立を成功させるために行基を勧請し、天平17年(745)には我が国初の大僧正の位を贈りました。行基自身は天平21年(749)に81歳で入滅しますが、天平勝宝4年(752)に見事、大仏鋳造は成功し、その多大な功績から朝廷より菩薩の称号が下され、以後、行基菩薩と呼ばれて厚く民衆に信奉されました。公園南矢田3の共同墓地には、その行基の墓があります。行基は生駒市の往生院で火葬されて竹林寺に遺骨が奉納されているので、これは供養墓と考えられていますが、当地の行基菩薩信仰が、いかに盛んだったかの証明といえます。

【注意事項】この地図は「大阪あそ歩」のまち歩きの資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴を着用してください。車などによく注意し、各自で責任をもって行動してください。また、住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。

【お問い合わせ】大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会「大阪あそ歩」事務局　電話06-6282-5930（財団法人大阪観光コンベンション協会内）「大阪あそ歩」の詳しいプログラムはホームページをご覧ください。 http://www.osaka-asobo.jp　または 大阪あそ歩 でネット検索を。

大阪あそ歩のコースは約2~3km、2~3時間程度を基準として作成されています。